

九州運輸局メールマガジン

平成22年7月1日 第88号(発行日:毎週木曜日)

~九州の明日を拓く運輸と観光~

九州運輸局HPアドレス <http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/>

いつも九州運輸局メールマガジンをご覧いただき誠にありがとうございます。

目次

- 1 九州運輸局ホームページアップ情報(6月24日~6月30日掲載分)
 - 各種情報
 - 分野別情報
 - 報道発表
- 2 現場レポート

- 1 九州運輸局ホームページアップ情報(6月24日~6月30日掲載分)

各種情報

《入札・契約情報》

- ・企画競争実施予定情報の公表について(6/28付け)

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/nyusatsu/pdf/koukyou/kikakukyousou_100628-1.pdf

- ・企画競争実施公示(6/28付け)

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/nyusatsu/list2.html#KIKAKU_KOUJI

- ・物品・役務入札公示(6/25付け 2件)

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/nyusatsu/list.html#BUPPIN_CHOTATSU

分野別情報

《海事》

- ・内航海運業の申請処分状況

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/ji_bu_ka/naikou/220611.pdf

《バス・タクシー・トラック》

・タクシーの申請・処分状況

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/ji_bu_ka/taxi/s_2206_2.pdf

報道発表

・中国の旅行番組「漫遊日本」を招請し、九州の魅力を伝える番組制作を支援します！

<http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/2010-0625-kokusai.pdf>

・平成21年度モーターボート競走の売上高及び総利用者数について

<http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/2010-0630-sangyo.pdf>

2 現場レポート

外国人船員に対する承認試験（海外実施編）

平成10年5月の船舶職員法の改正により、STCW条約（船員の資格証明等に関する条約）締約国が発給した資格証明書（ ）を受有する者であって、船舶職員として必要な経験、知識及び能力を有すると国土交通大臣の確認（承認）を受けた者については、我が国の海技士の免許を受けなくても船舶職員になることができる制度が導入されました。

承認にあたっては、我が国の海事法令に係る講習を修了することに加え、日本船における職務の遂行に必要な知識、能力の確認を行うため、身体検査及び口述試験からなる「承認試験」に合格することとしています。

STCW条約とは、船員の最低限の能力要件達成を義務づけた国際条約です。締結国（船員が乗り組む船舶の船籍国：旗国）政府は、同条約に基づき船員教育機関を監督し、能力証明を行い資格証明書を発給しています。

また、同条約締約国の中でも、我が国と「承認取極め締結」を行った国の発給する資格証明書受有者に限り認めており、現在では次の16ヵ国（ ）が該当します。

フィリピン共和国，トルコ共和国，ベトナム社会主義共和国，インドネシア共和国，インド，マレーシア，クロアチア共和国，ルーマニア，ブルガリア共和国，ミャンマー連邦，スリランカ民主社会主義共和国，モンテネグロ，バングラディッシュ人民共和国，大韓民国，グレートブリテン及び北アイルランド連合王国，パキスタンイスラム共和国

外航商船員対象の試験は海外で，漁船員対象の試験は当局内で実施しています。海外で行う試験については，平成12年1月，第1回承認試験をフィリピン共和国において実施し，その後平成21年度末までに年間3～4回，同国で33回，インド及びブルガリア共和国においてそれぞれ1回ずつ，合計35回の試験を行い，通算約4,000名の外国人船員を承認してきました。

なお，昨年から，これら承認船員の需要が一層の高まりを見せ，申請者数の増大に対応して，平成21年度は全8回の試験を実施しました。

本年度も，試験を8回実施することが予定されており，6月には，当局からも海技試験官1名がフィリピン共和国に出張し、国土交通本省及び他局の海技試験官とともに試験を実施しました。

今回の受験者総数は187名で，その職務別内訳は次のとおりです。

船長：36名
一等航海士：18名
二等航海士：34名
三等航海士：17名
機関長：30名
一等機関士：13名
二等機関士：24名
三等機関士：15名

(海上安全環境部 海技試験官)

「巨大な船の滑り台にビックリ！」

～小呂小・中学校の海事施設見学会を実施～

九州運輸局では、『海事産業次世代人材育成推進事業』として、玄界灘に浮かぶ小呂島の福岡市立小呂小・中学校の生徒及び教師の皆さんを対象に海事産業

施設の見学会を実施しました。

最初に訪問したのは、全国有数の水揚げ高を誇る福岡鮮魚市場です。

担当者より未明から活動を始める市場の様子や市場のハイテク設備等の説明を受けた後、四季折々に水揚げされる魚の紹介コーナーや市場全体を見渡せる展望室を見学しました。

続いて進水式が行われる福岡造船㈱へ。

造船所に近づくと、見えてきた総トン数10,000トンのタンカーに「わー、大きい！」と歓声が上がりました。造船所では、進水を待つ巨大な船を見上げながら『命名進水式』の会場に移動しました。ほどなく、登壇したデンマーク人のオーナー夫妻等を拍手で出迎えて式典に花を添えました。国歌の演奏、タンカーの命名の後、オーナー夫人が斧を振り下ろすと、船首でシャンパンとくす玉が割れて船が船台からすべり始めました。

マーチとサイレンの鳴り響く中、紙吹雪が舞い、加速した船は色鮮やかな紙テープをなびかせながら一気に水中にすべり降りました。新造船が生(せい)を受ける瞬間ともいえる進水式は大迫力、感動冷めやらぬ生徒たちは、同行の報道関係者から盛んなインタビューを受けていました。

その後、当局職員が行った出前講座では、国際貿易で活躍する様々な船の紹介、また、それらの船で輸入される工業原材料や「和食の原料でもある大豆も95%が船で輸入されています。」などの説明を熱心に聞いていました。

午後からは国際物流の玄関口である香椎パークポートを訪ね、博多港を介して九州各地から世界中に向かうコンテナ貨物等の説明を受けた後、管理棟の屋上か

ら広いコンテナヤードを見渡し、器用に動き回る特殊な港湾機械等を興味深そうに眺めていました。

海の恩恵と海事産業なしには我が国の発展はあり得ません。将来、生徒たちがこの日の感動を思い出して、一人でも多く海の仕事を志してくれればと願っています。

なお、当日の様様については、以下のURLからご覧になれます。

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_88.pdf

<参考>

九州海事産業次世代人材育成推進協議会（事務局：九州運輸局）では、青少年を対象に海の職場体験・造船所の進水式見学・港湾施設等の見学会等様々なイベントを支援し、海の魅力や海の職場の重要性について、広報活動を行っています。

当該協議会の活動内容等については、以下のURLをご覧ください。

<http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/kaiji/file08.htm>

【編集部より】

編集部では、新着の報道発表資料やその他の情報を発信します。

皆様のお知りになりたい情報やご意見・ご要望等ございましたら、お気軽に編集部までご連絡ください。

九州運輸局メールマガジン編集長（九州運輸局総務部広報対策官）

藤原 寿男（ふじわら としお）

mail : mm-kyushu@qst.mlit.go.jp

Tel : 092-472-2312 Fax : 092-471-7192

九州運輸局メールマガジンのバックナンバー閲覧はこちらから

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/top.html